

特 殊 報

岡 病 防 第 13 号
平成 20 年 12 月 2 日

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予察特殊報第 1 号を下記のとおり発表したので送付します。

平成 20 年度病虫害発生予察特殊報第 1 号

平成 20 年 12 月 2 日
岡 山 県

- 1 病虫害名：リンドウ黒斑病
- 2 病原菌：*Alternaria alternata* (Fries) Keissler
- 3 作物名：リンドウ
- 4 特殊報の内容：岡山県での初発生を確認
- 5 初発生確認月日：平成 20 年 9 月 17 日
- 6 初発生場所：岡山県北部
- 7 発生状況：平成 20 年 9 月に岡山県北部の露地栽培リンドウにおいて、葉に輪紋状の斑点を生じ、後に葉枯れとなる障害を確認した。診断の結果、本障害は *Alternaria alternata* (Fries) Keissler によるものであり、本県初発生のリンドウ黒斑病であると判明した。

リンドウ黒斑病は、平成 12 年に岩手県で初めて発生が確認され、平成 14 年に *Alternaria alternata* による病害であることが報告された。その後、長野県と福島県でも発生が報告されている。

8 病徴

はじめ葉の中央や縁に直径約 5 mm の淡褐色の斑点を生じ、その後輪紋状に拡大する（図 1）。葉の基部から茎に病斑が進展すると茎枯れを起こし、茎全体が枯れることもある。なお、黒斑病の病徴は褐斑病、葉枯病、灰色かび病と類似するが、発生生態や防除対策が異なるので正確な診断が必要である。褐斑病は病斑が古くなると破れや

すくなり、葉枯病は病斑上に径 0.1mm 程度の黒い粒（分生子殻）を多数生じる。灰色かび病も本病と同様に輪紋状の葉枯れを生ずることがあるが、灰色かび病は葉先から枯れるのに対して、本病は葉の中央や縁から枯れる点で区別できる。

9 病原菌及び発生生態について

糸状菌の一種で、不完全菌類に属する。分生子は淡褐色、倒洋ナシ形から倒棍棒形で隔壁を縦横に有し、大きさは $23\sim71\times7\sim14\mu\text{m}$ 、ビーク長は $2\sim18\mu\text{m}$ である（図 2）。病斑上や残さに形成された分生子は風や雨滴により飛散し、葉表面から感染する。発病適温は $20\sim25^{\circ}\text{C}$ で、接種した場合 3 日目頃から病斑が見え始め、5 日後には病斑が大型化する。本菌が感染した被害植物の残さは、翌年の第一次伝染源になると考えられる。

10 防除対策及び参考事項

- (1) 発病を確認したら速やかに薬剤を散布する（表 1 参照）。
- (2) 発病葉、被害残さは伝染源となるので、圃場外に持ち出し適切に処分する。

表 1 リンドウ黒斑病に登録のある薬剤（平成 20 年 12 月 2 日現在）

薬剤名	希釈倍率	使用量	使用時期	使用回数
ストロビーフロアブル	2,000 倍	100~400L/10a	発病初期	3 回以内
フルピカフロアブル	2,000 倍	200~700L/10a	発病初期	5 回以内

注) ポリオキシシンAL水溶剤「科研」も「花き類・観葉植物」の「黒斑病」に対して登録があるが、リンドウ黒斑病に対する効果や薬害等について未確認のため、表から除いた。



図 1 黒斑病の病徴（左：葉の輪紋状斑点、右：葉枯れ症状）

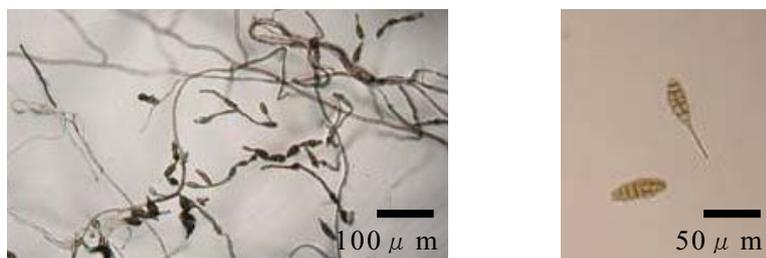


図 2 リンドウ黒斑病菌（左：菌糸と分生子、右：分生子）